



学校だより



令和4年 4月28日発行
 さいたま市立本太小学校
 Tel 048-882-3007
<http://motobuto-e.saitama-city.ed.jp>
 e-mail motobuto-e@saitama-city.ed.jp

主体的・対話的で、深い学び

校長 藤澤 美智子

木々の青葉が美しい季節になりました。始業式から3週間、学級のスタートもひと段落して、子どもも教員も疲れが出る頃です。しかし、この時期は、学級内の人間関係を築き、そして学級のルールを定着させる大切な時期でもあります。本校の教員も気を引き締め直して、教育活動にあたってまいります。

の協働や対話によって更に学びを深めていくような学び方、いわゆる「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善が求められています。このような学びを進めていくことにより、各教科で得た力が将来につながり、子どもたちが社会に出てからも学んだことが生かせるような力を付けていきたいと考えております。さらに、これまでも重視されていた「主体的な学び」と共に「対話的な学び」の視点加わることで、「自分の考えをもつ」だけでなく「互いに自分の考えを伝え合うこと」で、自分だけでは考えつかなかった多様な考えに触れ、それを基に自分自身の考えを様々な角度から見つめ直し、自分も相手も納得する答えを共に見つけることができるようになります。それによって深い学びにもつながっていくのです。本校では、GIGA スクール構想を更に推し進め各教科での学びに活かしていくことや教科担任制の導入、SDGs 教育や今年度から導入されるSTEAMSTIME 等によって、本太っ子の「主体的・対話的で深い学び」を推進してまいります。



先日、あるクラスの係り決めの時間に「お楽しみ係とお笑い係を一つの係りにするかどうかについて」の話合いが行われていました。一つにまとめた方がよいという意見が多い中、ある児童が「別々にあった方が、楽しいクラスになる」と、その理由を含めて自身の考えを詳しくみんなに伝えていたのです。すると、クラスの仲間から口々に「なるほど」というつぶやきが聞かれ、みんなが納得した様子うかがえました。本校は、本年度の重点として「自分で考え、判断し、行動する（考えたことを伝える）」ことを挙げておりますが、まさに自分の考えをしっかりと、それを相手に分かるように伝えている子どもの姿に、頼もしさを感じた出来事でした。



今年、本校もコミュニティスクールとなり、これまで以上に学校、家庭、地域が一体となった取組が期待されます。

学校でカリキュラムを編成する際の基準を定めているのが「学習指導要領」ですが、新たに文部科学省が示した学習指導要領では、society5.0 と言われる新たな時代を逞しく生き抜く力を子どもたちにはぐくむために、「何を学ぶか」という学習内容だけでなく、「どのように学ぶか（学習方法）」についても目が向けられています。具体的には、学習への関心や意欲を高くもち、自身で学びを進めるとともに、友達や周りの人々と

子どもの教育は、保護者、地域の皆様との「協働」であり、大切なのは「対話」です。全ての子どもよりよい成長のために、そして幸せのために、学校、家庭、地域がいかにあるべきか、いかに協働していくかを共に考え、心を合わせて実践していきたいと思っております。保護者・地域の皆様、御協力のほど、よろしくお願ひいたします。